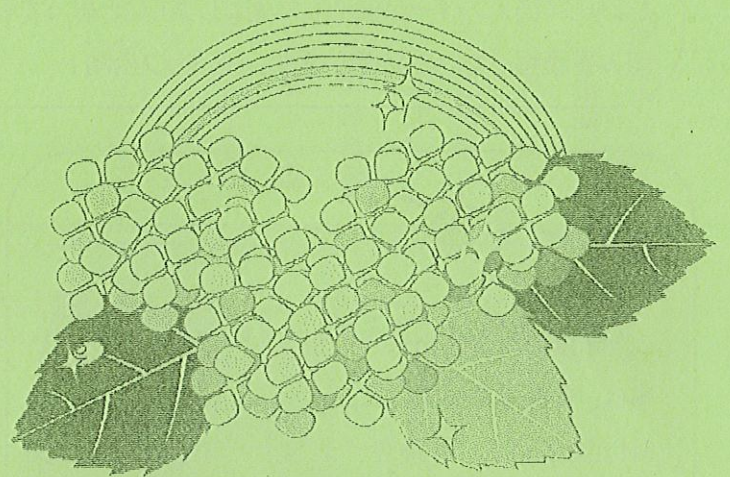


# HSK こころから

68号

2019.7

笑顔がまぶしい  
夏至の朝  
ただいまは  
入院生活は  
七か月



<https://www.seishin-sien.com/>

ホームページも見てね！



こちらの  
QRコードからも  
アクセスできます

昭和48年1月13日第3種郵便物承認

HSK通巻番号568号

発行 2019年7月10日（毎月10日発行）

編集 住所：札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名：特定非営利活動法人（NPO）

精神障害者を支援する会

TEL：（011）736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会（HSK）

定価 50円（会費に含む）

# 2018年度の事業報告

6月8日(土)、支援する会第21回定期総会が行われました。地域活動支援センター(ダリアの郷支援センター)、就労継続支援B型事業(共同作業所・HAPPY)、グループホームの事業報告を紹介しします。



## ダリアの郷 支援センター

昨年9月の胆振東部地震の際は、札幌も震度3。利用メンバーに連絡、通じない所は訪問し無事を確認しま

した。不安な夜を過ごしてダリアに通所してきたメンバーに、2日間にわたって炊き出しを行いました。本当に頼りにされている事を実感しました。全体ミーティングでは防災グッズの準備、食料、懐中電灯の電池購入など余震災害に備えての話し合いをしました。

課題である訪問活動は、障害者ご夫婦で妻が入院し、足の不自由なご主人の為に夕食を届けるなど、できる限りの訪問支援をしました。今後もより多くのメンバーが安心して過ごし楽しいと思ってもらえるような取り組みを頑張っていこうと思います。(スタッフ松崎)

## グループホーム

昨年度の大きな出来事は、支援する会隣にGHが新築され、若根荘が引越してきた事です。若根荘は入居者の一人が階段から転倒し、高齢



化対策が急がれていました。完成を入居者は勿論、支援する会に通所する利用者も職員も、今か今かと楽しみにしていました。若根荘に20年にわたり入居している方は、今回3度目の引越しになったのですが、『新築なんて嘘のよう。寒さを心配しなくて良い事、窓から明るい陽射しが差し込む事がとてもうれしい』と話していました。

昨年度は5名の入居者を迎えましたが、その内4名が退去されました。様々な生きざま、障害を抱えて入居する利用者への職員の支援力向上の為に、今年度は毎月1回、GH担当職員会議を行い、各住居の課題や支援の悩みを出し合い、相談できる場として機能させていきたいです。(スタッフ藤原)

## 共同作業所・HAPPY

現在メンバーは、男性18名、女性10名。1日平均21名が通所し、多い日は25名が作業をしています。作業は手芸品



や廃油石けんなどの制作・販売、デコレーションケーキの底板作りや古紙回収袋を折る外注作業、畑や訪問販売などから、メンバーがやりたい作業を選んで行っています。

HAPPYにはメンバーと職員でつくる互助会があり、昨年は初めての親睦会をメンバーで「焼肉食べ放題」を企画・実施しました。今年は日帰り温泉で交流し、学習では『お互いを理解する』をテーマに自分の障害について話す会を開く予定です。

今年度の課題は作業工賃を上げる事です。訪問販売は販路の拡大、ハッピーショップの宣伝強化、自主製品の生産性の向上、特にミシン作業は技術向上に取り組みます。また、元気に作業をおこなう身体づくりを目指します。(スタッフ曾我)



# 食べて、飲んで、大盛況! 「お花見」

5月4日(土)、アサヒビール園ロイン等にて。参加者は総勢68名!



みんなで飲食して楽しかったです。お寿司がおいしかった! 来年も、またぜひ参加したいです。(齊藤淳子さん)

※前列真ん中



焼きそばやラーメンまで、色々な食べ物があって、桜も咲いて、天気も良くて大変良かったです。

(奥名スタッフ)

※右側

いつもの缶ビールより、生ビールは美味しかった。3杯飲みました。庭の桜が満開でとてもきれいでした。(福岡さん) ※左端



# 精神障害者 地域とつなぐ

## 札幌・西区「支援する会」法人化20年

### 作業所で手作り 自身が訪問販売

精神障害者が手作りしたせつげんや小物入れなどを、自身が近隣住宅を訪ね、販売する道内では珍しい取り組みを行うNPO法人がある。札幌市西区の共同作業所などを運営する「精神障害者支援する会」(三浦誠一理事長)。今年法人化から20年を迎え、関係者は「地域の皆さんの理解に支えられた20年だった」と、思いを新たにしている。(荒谷健一郎)

「近くの作業所から来ましたが、何か入り用のものはありますか」。4月下旬、札幌市西区八軒の住宅街、初夏の陽気の中、精神障害者を支援する会が運営する「共同作業所HAPPY」のメンバー3人の職員が二軒一軒を訪ねていた。手作りのゼリーやせつげん、巾着袋……。40軒ほど訪ね歩き、売れたのは合わせて販売している札幌市の市指定ごみ袋1組。それでも何も売れない日がある中、この日は玄関を開けて応対してくれる住民が多く、参加した作業所の女性46は「極度の人気知りで話すのが苦手だが、少しずつ上手に話せるようになってきた」と充実した表情をみせた。

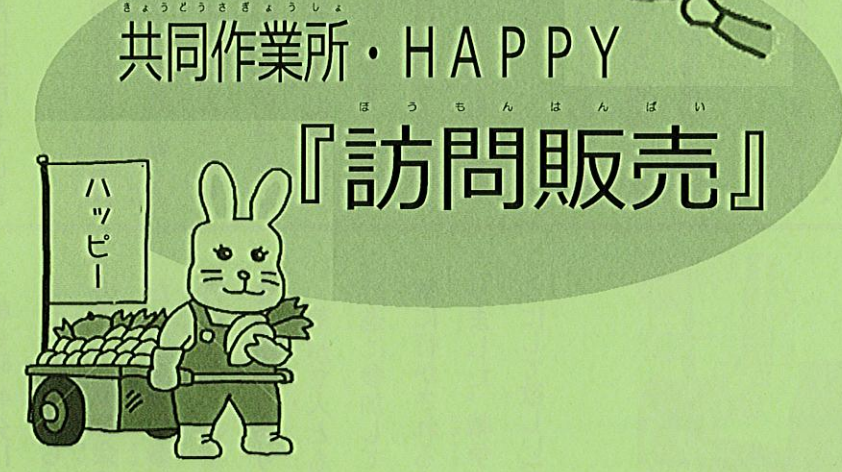
「支援する会」がNPO法人格を取得して発足。西区八軒を拠点に、精神障害者が共同で生活するグループホーム1棟の運営や障害者の相談事業なども行う。当初、一部住民から「何をやるのか分からない」「不安の声も出たが、地域説明会を開いたり、町内会活動や商品回収への貢献、年2回のバザーなどを通じて、地域は受け込んだ。訪問販売は10年ほど前、共同作業所利用者の一般就労に向けた訓練の一環で始めた。利用者が約30人のうち希望者18人が1組2〜3人に分かれて1日約2時間の近隣を回る。人と接するのが苦手な利用者も多く、難



共同作業所HAPPYの職員(左から)と一組に、商品を持って訪問販売に歩く利用者(4月下旬、札幌市西区)

### 訪問販売を始めた目的

- ① 働くメンバーの、作業工賃を上げたい!
- ② 地域の人と仲良くなりたい!



新聞で紹介された感想は?

- HAPPYを知ってもらった機会になった。
- 載った写真が良いね
- これから販売する時に『新聞にのりました』と言えるね!
- 障害者のイメージがかわったかな? 精神障害者の理解が深まったかな?
- 訪問販売が少しずつ地域に広まっていくといいな
- 身だしなみや、普段からの行動に気をつけよう
- HAPPYの名前を背負っている。地域の信用をなくさないようにしたい。
- 地域でがんばっている事を、新聞記事を見てわかってくれるとうれしい

訪問販売していてうれしいことは?

- 『くろくさまです』と声をかけられたこと
- 玄関先に出てきてくれただけでもうれしい
- 品物を買ってくれたらうれしい
- たくさん買ってくれた時

困ったことは?

- 訪問先で、ビールをくれようとした人がいた。スタッフが断ってくれた。
- 『セールス禁止』の張り紙に気が付かず訪問して、「お断りして書いていますでしょ」と言われた。
- 荷物が多いから、スタッフと2人で販売したとき大変だった。
- 冬場は荷物が運びづらい。
- 販売が終わったあと、在庫表と数があわず焦った事があった。

訪問販売していてうれしいことは?

- 『笑顔はできたけど、しゃべる事ができなかった。』
- 冬、歩くペースについていけなかった。
- チャイムを押しても出てくれない。宣伝が必要だと思ふ。
- 障害者が関わる事件が起きると、訪問販売にも影響があるのではないかと心配している。
- 留守宅が多い事。

生活保護制度は、すばらしい制度

# みんなで生存権を守ろう！

5月1日(水)、札幌市大通公園8丁目広場にて、第90回「デー北海道集会」が行われました。

支援する会の吉田伸さん(写真・41歳)が壇上に立ち、「新・人間裁判」原告としてスピーチをしました。



「僕は、知的障害者の吉田伸です。今は、障害年金と、足りない分、生活保護を受けながら作業所に通所しています。」

2013年の8月に、生活保護費が引き下げられ、新・人間裁判の原告の一人となりました。この裁判のさなかに、昨年10月に更に保護費を引き下げたのです。僕の場合、一ヶ月に2,760円、1年間で3万3千円も引き下げられたのです。

私たち1,031人の審査請求人は、憲法が保障する生存権をかち取るまで、頑張ります。生活保護制度は、すばらしい制度です。みんなで、生存権を守りましょう！

出発地点

野幌百年記念塔から参加

中澤昭子さん

(写真右端)

朝9時45分に集合して歩きまわった。田舎から札幌に出てきたので、一度都会の街を歩いてみたいと思って参加しましたが、行進は思ったより大変で、街を見る余裕はありませんでした。弟が2人とも自衛隊員です。行進に参加して、自衛隊員が競争に行かされる時代なんだと知りました。戦争が起こらないようにして欲しいです。



## 5/18 (土) 国民平和大行進

核兵器のない世界「いいね！」コールで元気に行進！

菊水公園から参加

有櫛和人さん

(写真左端)

2時間くらい行進しました。交代しながら幟を持ちました。核兵器も戦争も世界を変えてしまうからイヤです。



菊水公園から参加

渡辺哲也さん

(写真右から2人目)

去年から2回目の参加です。昨年は雨で、今年は暑さとの闘いでした。スタッフのお孫さんと手をつないで、平和を訴えながら行進しました。

『旭川市障害者福祉センターおびった』で行われたきょうされん北海道大会。支援する会  
は、利用者さん6名、職員4名が参加しました。  
きょうされん40周年記念映画『星に語りて』  
(東日本大震災、障害のある人と支援者の  
物語)鑑賞、映画のモデルになった施設代表理  
事青田由幸さんの記念講演、交流会、2日目の  
ワークショップなど、多くの事を学びました。

ワークショップに参加して

吉田 伸

僕は2日目のワークシ  
ョップで『制度』についての話  
し合いに参加しました。僕  
が新・人間裁判の原告だと  
話したら、『私も生活保護を  
利用したいけど、親が反対  
している』などの会話にな  
り、情報交換もできて良か  
ったです。

## 参加して感じた事

記念講演を聞いて

岸山周二

会場に着いてすぐに映画  
を観ました。本当の津波の  
シーンはとてもショッキング  
でした。福島ふくしまの障害者  
施設職員さんの講演は、『国  
は、東北は復興したと言っ  
ているが、そうではない』と  
いう話でした。残念です。

テレビでは報道されない事

内城雅人

映画のモデルになった南  
相馬市事業所の方のお話を  
聞き、テレビでは伝えられ  
ない、地獄のような当時の  
様子を知りました。一般の  
方にも、実際の話聞いて  
もらう機会があればという  
思いです。

# 2019 きょうされん全道大会 in あさひかわ

5月11日(土) ~ 12日(日)

多くの人に見て欲しい

高坂千秋

障害者が、避難所で暮ら  
せず、一人で壊れた家の中  
で生きていた事など、報道  
では伝えられなかった事を知  
りました。『星に語りて』を  
多くの人に見て欲しい。自  
分も学んだ事を伝えたい。

感動したシーン

池田景子

映画では、被災地の役所の  
人が大変な思いをしながら  
働いていた事を知りました。  
亡くなった利用者さんの宝  
物が見つかったシーンに感  
動しました。交流会で一緒だ  
った旭川の方と2日目も  
一緒に嬉しかったです。



前列左から、スタッフ曾我、池田さん、吉田さん、岸山さん、スタッフ藤原  
後列左から、スタッフ片山、高坂さん、伊藤さん、内城さん、スタッフ伊東

『働くって何』について考える

伊藤勇人

映画では、震災時の障害者  
の扱いや行動のしづらさを  
感じた。ワークショップ『働  
くって何』では就労をする  
事によって地域の人の交  
流や、生きる事への自信につ  
ながると考えた。自分は居場  
所の大切さを訴えた。

# 4コマまんが

～チヒロとサト～



By はは

## 《寄付金・寄贈品》

当会の活動に対し、ご支援いただき  
厚くお礼を申し上げます。

(順不同・敬称略)

2019. 4. 1～6. 30

北海道生活と健康を守る会連合会、NPO はるな会障害者サポート、NPO 法人 Re～らぶ、ニチドク事務機(株)、(有)京屋電機 斉藤一博、美容ハウス、藤本青果店、フジモトアキラ整骨院、土沼芳枝、高坂瑞世、片山則之、清原光恵、片石松蔵、池高、溝上、池田道子、安彦洋子、宮川、丸山、伊藤昭子、水谷セイ子、鍋谷、米村敦子、佐藤宏和、及川、松永由美子、小西やえ子、田口尚之、近藤勝則、磯谷敏雄、互野利弘、伊藤しのぶ、坂井、土沼司、増田ゆみ子、長沼綾子、水上、西島、高谷、向山、高橋、市村、菅原、内山、浜林、宮保、阿野、山階雅章、タミヤ、野口、佐藤、マツダアツコ、伊藤、山本、高橋徳子、渡辺正興、大西直子、藤田和子、小島智子、板谷留美子



～ご協力のお願い～

『書き損じハガキ、ありませんか?』

支援する会では“書き損じハガキ”を集めています。頂いたハガキは、支援する会の財政活動に使わせて頂きます。

ご協力宜しくお願い致します。

HSK ころから

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

発行 2019年7月10日(毎月10日発行)

HSK通巻番号568号

### <編集後記>

7/4(木)夏の福祉バザー『ダリア祭』を開催!多くの地域の方が足を運んでくださり、模擬店チケットは完売!大盛況。ギター弾き流しライブは懐メロから流行りの曲までのラインアップ。知らない人同士も思わずニコリ!(歌の力ってスゴイ♪)。北海道新聞夕刊にHAPPYの訪問販売が取り上げられ、メンバーは『障害者への理解が深まるのでは』と期待している。年2回行っている『ダリア祭』も障害者への理解を深め、地域に開かれた施設づくりの役割を担ってきた。『ころから』もその一役をになえるよう努力したい。最後に、『ダリア祭』にバザー品を寄付して頂いた地域の皆様、ご協力ありがとうございました。(藤原)